

人口減と空き家の再生について = 今 やらねばならぬ事 =

想い: 私が 18 年前、まちづくり倶楽部を創設するきっかけになったのは「自分の実家（公民館周辺）の周りの年寄りが増え、空き家が目立ってきて、何とかしなければ」との思いからだ。残念ながら 18 年たった今もこの状況は変わってはいない。自分たちの力不足はわかっているが、商店街と中心市街地の活動に携わった当時から、“行政頼み”だったり、「しようがない、誰かにやってほしい」等々、自分の街を他人任せにしてきた事にも原因がある。

目的: これまでまちづくり倶楽部は、政策提案型の活動が多かったが、建築関係者の多い倶楽部の特徴を活かし、具体的に「空き家をアーバンコテージに再生」させ、空き家問題の現状と解決方法を関係者に投げかけ、情報共有とこれからやらなければならない事を確認し合う事を今回のフォーラムの目的にした。標記のテーマに関係する多方面の方々（※）の参加があった。宅地建物取引業協会の方々が「空き家の相談会」を同じ会場で開催した。

内容: 全体の議論の感じは、どっか「市長と語る会」のような“対 行政”といった感じの議論が多かった。確かに、現状の把握は町内会の情報が無くてはならない。しかし、行政をつつけば直ぐに解決する状況ではないと皆が気づいている。

1部 “人・仕事・あずましさを増やすプロジェクト”＝大湊リノベーション計画＝のダイジェスト版を（別紙：1）添付する。

2部 2部の「空き家をアーバンコテージに再生」させた事例報告を（別紙：2）添付する。

3部 以下に意見交換会の内容をレポートする。

■町内会の自治を実際に行っている現場の町内会長さん（3町）が参加してくれた。空き家は廃屋から使える空き家まで幅広く、廃屋の処分が先行しないと防犯・防災～景観の良いという議論にならないのではないかと。それに対して、行政の方が4課参加してくれたが、行政の対応として「特定空き家」の法的内容を説明。最初のこの辺の会話のやり取りが『町内会のお困り相談』的なリズムから始まってしまった。



空き家対策協議会・・・空き家に関しての（特に特定空き家）行政の体制は、法的施行のために条例・予算化の準備段階のようで、これから【対策協議会】を立ち上げるタイミングでいる。この協議会には宅建業協会はじめ民間事業者などに参加と情報公開の要望がありそうだ。素案作りが進んでいるらしく、年末前後の協議会立ち上げが期待される。ただし、むつ市は廃屋中心のようだが、周辺町村には不動産取引などの流通媒体がないため、使える空き家の対策も考慮するらしい。



まちづくり倶楽部としては、【この協議会】の中で、廃屋などの手続きと処理の方法、使える空き家等はストック活用としての（誰が進めていくのか）役割分担とシステムなどが、具体化されることを望むものである。

アーバンコテージの可能性・・・建設的な議論に持ち上げる為に問うてみた。利用者のターゲットの話から長期滞在者の可能性として、観光の立場から外国人の利用の可能性を模索中であると。ジオパークの今後の見通しでも、この部分は未知数ではあると思うが、移住者や避暑を兼ねた二地域居住など下北地域のオリジナリティー（例えば、コンドミニウム型客室など）として前向きに対策したいものだ。



景観計画と観光・・・「景観（景色）」を、景観の考え方も含めて創り上げていくべきではないのか？**美しい街、歴史的建物、歴史と景観が物語になっている街には行ってみたくなるものである。地元の人が、自らの地域の歴史と景観を知り育てて行く事が街の将来につながる。**



ジオパーク構想など今あるものや進行中のものを有効に組み合わせるべきで、空き家の再生や景観づくりも、その行動が仕事づくりにつながる。**みんなで創る大きな公共工事**となるのだ

「中心地への人口の集中と投資」・・・商店街の衰退はさびしい、店売りだけでは子供も少なくなり漫画なども売れなくなっている。外商を兼ねているので閉店しないで済んでいる店がある。大湊小学校はこの5、6年で50人以上も児童が少なくなってしまう。大湊や田名部の中心地には投資する価値が無くなってしまっている？という考え方も当然ある。投資効果が期待できる地区かどうかという事である。今までも（まちづくり倶楽部が中心市街地の活動中も）これら地区は建設的議論が少なく、何も効果的な対策を打って来なかった。これが、今の実状を招いているのだ。今回も同様に、非常に認識不足としか言えない。**本当の意味で“自分たちにできる事”は、空き家の再生などと共に中心市街地（商店街だけでなく）をステージに街の再生をみんなでやる事なのだ。・・・**



と高らかに言うと「じゃ誰がやるの？」という事になる。**だから、みんなで今からでもやらねばと言っているのです。**



“まちづくりは人の為ならず”

アンケート結果・・・アンケートの集計結果を（別紙：3）添付する。フォーラムの評価とすれば、多方面の参加者から多様な意見が聞けた貴重な機会だったようだ。（工藤知彦）

（※参加者：宅建業協会 6名、町内会 3名、商店街 1名、建築士 1名、行政 4名、一般市民 2名、まちづくり 5名、マスコミ 2名、学生 6名、NPO 2名、合計 32名）